

平成30年度 第1回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 平成30年8月3日(金) 午前10時30分～正午

【場 所】 豊田市役所 教育委員会会議室(大)

【出席者】 (委員) 菊池 秀夫 (中京大学スポーツ科学部 教授)《会長》
梅村 正幸 ((公財)豊田市体育協会 事務局長)《副会長》
岩月 富士雄 ((一社)豊田市身障協会 理事)
加藤 恵美子 (豊田市スポーツ推進委員協議会 会長)
岸田 隆司(多加司) (トヨタ自動車(株)人事部 グループ長)
板倉 武彦 (豊田市区長会 書記)
千賀 啓三 (豊田市サッカー協会 会長)
村田 美智子 (高齢者クラブ連合会 スポーツ部長)
手嶋 道雄 (豊田市スポーツ少年団 本部長)
安江 与志幸 (豊田市ラグビーフットボール協会 理事)

【欠席者】 (委員) 岩月 幸雄 (健康づくり協議会 会長)
田中 希代子 ((株)名古屋グランパスエイト マーケティング部係長)
徳増 年彦 ((株)豊田スタジアム 取締役事業推進部長)
谷山 由香利 (豊田市女性スポーツ団体協議会 会長)
藤田 武士 (中小学校体育連盟豊田支所 支所長)

【事務局】 山本 浩司(教育長) 田中 茂樹(生涯活躍部長)
辻 邦恵(生涯活躍部副部長) 村中 正史(スポーツ課長)
畔柳 隆二(スポーツ課副課長) 山本 肇(スポーツ課担当長)
岩月 克文(スポーツ課担当長) 杉坂 直輝(スポーツ課主事)
川治 明恵(スポーツ課主事)

【傍聴人】 なし

【次 第】 1 会長あいさつ
2 委嘱状交付
3 新任委員紹介
4 生涯活躍部あいさつ
5 議題
(1) 第3次豊田市生涯スポーツプラン・行動計画について
(2) スポーツ施設整備基本方針の策定について

【会議録（議題部分のみ）】

■議題（１）第３次生涯スポーツプラン・行動計画について

事務局：資料に基づき説明（P 1～P 4・別添資料1）

会 長：スポーツを「する」機会の拡充に関する説明事項について、ご意見やご質問がありましたらお願いします。

委 員：ラグビーを市子連に導入するというのを議会の中で聞いたことがあります。現在、どのような状況になっているのでしょうか。また、フットサルとの兼ね合いはどうなっていくのでしょうか。

事務局：フットサルの代わりに、ラグビーを導入するといったような具体的な市子連の動きはありません。現在、地域において、スポーツ推進委員や地域スポーツクラブがラグビーに親しむ機会を作り出しています。また、トヨタ自動車ヴェルブリッツの現役選手がラグビー教室を開催するなど、ラグビーフットボールをより身近に感じられるように、ラグビーと触れ合う機会を増やしています。

委 員：ありがとうございます。続いて、ラジオ体操について質問します。地域への働きかけをしていくという話ですが、学校への働きかけは行っていくのでしょうか。

事務局：今回の取組は、地域住民を対象としており、朝6時30分にラジオで流れる放送を活用して行う取組ですので、学校への導入は考えておりません。

委 員：ありがとうございます。

委 員：先ほどのラグビーについてです。ラグビーフットボール協会の意見を承ってきましたのでここで述べさせていただきます。ラグビーは接触がなく、誰でも気軽に取り組めるスポーツです。そのラグビーを入り口として、ラグビーに親しんでいただく流れを日本ラグビーフットボール協会は望んでいます。本市においては、中学校に部活がないということが、ラグビーの裾野を広げることの壁になっていると感じています。ヴェルブリッツもラグビー教室を開催しており、ラグビー協会としてもラグビーワールドカップ2019™後もラグビーを引き続き実施していきたいと考えていますが、次のステージがないため続いていきません。全国大会もサントリーカップがあるが、これまで豊田市のチームの出場はありません。市内大会についても、豊田青年会議所主催で開催されていますが、一昨年は、日進のチームが表彰台を独占するという状態でした。その際、市長が「豊田市のチームにもっと頑張ってもらいたい」という旨の発言をされていたのを記憶しています。このような状況では、ラグビーが将来につながっていくことは、厳しい状況であるという意見です。

会 長：ありがとうございます。現在の取組を続けていき、少しずつでも子どもたちに認知されることが、裾野の拡大につながっていくということですね。

委 員：委員がおっしゃった、「ヴェルブリッツラグビー教室」は、ラグビーの普及や盛り上げに非常に効果があると感じています。一方で、ラグビー教室を経験した子どもがラグビーをやりたいとなった時に中学校の部活がないということで、活躍の場がない現状があります。中学校では、別の種目の部活へ入部し、高校でラグビーを行うことが想定されます。加えて、弊社では、日本ラグビーフットボール協会からの依頼で、「放課後ラグビー教室」を開催しています。これは、ラグビー初級者がラグビーを経験する場として開催しています。しかし、次のステージにつながっていない現状があります。

会 長：学校教育のプログラムにラグビーがないということの影響は大きいということですね。そのあ

- たりを地域スポーツクラブや企業が連携して、高校への橋渡しを行っていく必要がありますね。
- 委員：ラグビースクールをみると、入団する小学生は増えています。学校にラグビー部を新たに導入するというのは教員の多忙化解消の動きがある中で難しいことが考えられます。部活動というより中学校のクラブチームの体制強化を考えていったほうが現実的なのではないかと思います。
- 事務局：昨日、豊田青年会議所の方とお話しする機会があり、J Cフレンドリーカップはラグビーワールドカップ2019™開催後も開催していく意向があるということ伺いました。私たちもレガシーとして残していきたいです。今後ともお互いに協力していきたいです。よろしくお願いいたします。
- 委員：スポーツに触れ合う機会提供という観点から考えた時に、弊社の取組として、買い物ついでに野球クリニックを受講する機会を横浜のショッピングセンターで開催しました。スポーツに触れる機会のなかった方を巻き込んでいけば、スポーツ全体の活性化につながっていくと思います。
- 委員：少子化の影響で、サッカー人口も減り始めています。興味、関心がゲームに移っています。少子化のために、学校における部活動の種目数が減少し、やりたい部活動がなくなってしまう。指導する側の学校やクラブチームと受ける側の需要と供給がうまくいっていないと立ち行かなくなってしまう。また、サッカーを経験した後、ラグビーを始めた人も多いと聞いています。設立当初から、サッカー協会は少年を対象に組織を拡大してきました。クラブチームを数多く立ち上げて、活発に活動してきましたが、現在、会場と指導者がなくて活動できないという問題が生じています。クラブチームを立ち上げていくのであれば、長期的なビジョンを持って動いていかないと続いていかないと思います。
- 委員：豊田市で剣道を普及する際に考えたことは、大人ばかりではなく、子どもに普及しなければいけないということです。当初、大人ばかりだったものを、子どもに広めることが難しく、指導者集めに苦労しました。現在、剣道連盟の団体は全て自立で行っている。生涯スポーツとして、子どもから高齢者までもが楽しめる組織作りをしていかないと、無責任な立ち上げとなってしまいます。地域ごとに責任者を決めて、進めていく方法がいいと思う。指導者も子ども達から得られる楽しさ、嬉しさは絶対あると感じています。
- 会長：ありがとうございます。長期的な視点を持つことが大切ということですね。
- 事務局：資料に基づき説明（P5～P6・別添資料1）
- 会長：スポーツを楽しむ風土の醸成に関する説明事項について、ご意見やご質問がありましたらお願いします。
- 委員：わがまちアスリートに、カヌー競技の羽根田卓也選手をぜひ任命してほしい。
- 委員：スポーツを楽しむ風土と直結しないかもしれませんが、8月19日（日）の名古屋グランパス対サガン鳥栖戦において、佐藤啓太選手、池田幹夫選手がサポーターの前で100mを走る催しを行う。このような取り組みをして、パラスポーツを知ってもらおうきっかけとしたい。プロの試合の中にパラスポーツを取り入れる取り組みもしていきたい。
- 会長：スポーツイベントに取り入れて、新たなスポーツを知るきっかけを提供するのは重要である。
- 委員：豊田市からプロサッカー選手となり、活躍した選手がいない。選手を育てる仕組みがうまくできていないと感じる。プロの世界なので難しいのは承知しているが、皆様から何か意見をいただけると嬉しいです。
- 会長：吉田麻也選手も県外からグランパスへ来た選手ですか。

委員：そうですね。純粹にユースからグランパス出身の選手が育っていない。地元選手を育てる仕組み作りが必要だと思う。

事務局：資料に基づき説明（P 7～P 8・別添資料1）

会長：スポーツを「支える」人材の育成に関する説明事項について、特にスポーツクラブ連合会の設立についてお話を頂きました。これについて、ご意見やご質問がありましたらお願いします。

委員：地域スポーツクラブで、クラブハウスを持っているスポーツクラブは何か所ありますか。

事務局：専用の建物としてクラブハウスがある地域スポーツクラブは6か所です。

委員：市は、クラブハウス設立に関して、当初2000万円の補助をしていた記憶がある。この制度は打ち切られたのでしょうか。今後クラブハウス建設について、補助はあるのか。

事務局：クラブハウス自体は、市で準備させていただいている。

委員：地域によっては、スポーツをする場が確保できない状態がある。今年は、特に熱中症対策として、行事を延期しようとしたとしても、次の開催場所が確保できません。すえのはらスポーツクラブは、交流館の多目的ホール等で卓球等を行っている。子どもが減っているが、スポーツをする大人が増えていると感じています。クラブチームを作ると言っても、その分コミュニティの活動の場が圧迫されてしまいます。コミュニティ活動がしやすい予約等の環境の整備を行ってほしい。

事務局：嬉しい悲鳴でもあります。地元のスポーツ活動やスポーツクラブの活動が安定的にできるように、予約の制度を整えています。ぜひ、その制度を活用してほしい。

また、クラブハウス設置についてですが、設置できる土地と諸条件を整えば、クラブハウス自体は市が用意させていただきます。

委員：施設についての要望です。市長が今年の酷暑の影響で、小学校へのクーラー導入を前倒しするということを決めました。スポーツ施設においても、照明設備を設置してもらえると、昼間よりも涼しい時間帯で練習等を行うことができます。一度ご検討をお願いしたい。現在、市子連とスポーツ少年団の練習場所がぶつかっています。夜間照明の整備は、そういった状態の解決策にもなるのではないかと思います。意見として述べさせていただきます。

事務局：先ほどご質問のありましたラグビーの市子連導入についてですが、平成28年の3月議会で子ども部に向けて質問が出ていました。ラグビーを導入する、しないは市子連が決定することですが、市はラグビーワールドカップ2019™開催に向けた機運醸成のため、市子連に働きかけていくと答えています。

委員：ありがとうございました。

■議題（2）スポーツ施設整備基本方針の策定について

事務局：資料に基づき説明（別添資料2-1、2、3）

会長：説明事項について、ご意見やご質問がありましたらお願いします。

委員：拳母地区はスカイホール豊田と西部体育館がありますが、スカイホール豊田の興行場化を行って行く中で、地域住民の活動場所がなくなっていくのではないのでしょうか。拳母地区で地域住民が利用できるような体育館があったほうが良いのではないのでしょうか。中央公園の二期整備で、白浜公園がキャンプ等で活用されるという話もあります。住民のスポーツ実施場所の確保という観点から、問題はないのかお伺いしたい。

事務局：現在、土日に関して、旧市内のすべての体育館の稼働率が80%を超えています。特にスカイホール豊田は、土日を中心に団体の大会等の利用が多く、一般市民の利用が難しい状態です。一般市民の利用の新たな受け皿として、松平体育館の建設を行っていますが、スカイホール豊田の「みる」スポーツの加速による影響も考慮し、稼働率がどう変化するかを注視し、その結果新たな体育館が必要と判断すれば、設置も考えていきます。白浜公園については、具体的には決まっていないため、今後調整していきます。

委員：松平体育館の駐車場は、何台くらい停められますか。

事務局：手元に資料がないため、正確な数字はお答えすることができません。約100台の駐車はできると思います。近隣のこども園には、駐車場の協力依頼をしています。そういった近隣施設を活用しながら、運営していきたいと考えています。

会長：それでは、事務局が示した施設整備の基本方針について、ご了承いただけたということでしょうか。

(異議なし)

会長：それでは、第8次総合計画期間中の施設整備の基本方針については承認とさせていただきます。

事務局：ありがとうございます。それでは、今後基本方針に基づいて進めさせていただきます。

第2回の審議会では、具体的な方針案を提示させていただき、ご意見をいただきたいと思えます。

会長：ありがとうございました。それでは、全体を通しましてご意見、ご質問がありますでしょうか。

事務局：先ほどの委員の質問に対する回答の補足をさせていただきます。スポーツ課としては、用地や諸条件が整えば、財政課へ要求を行います。後は、市の財政状況との調整となりますので、その点はご了承ください。

会長：追加のご意見がある場合は、机上の提出シートを利用し、事務局へ提出をお願いします。それでは、これをもちまして事務局にお返しさせていただきます。

以上